

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242023

研究課題名(和文) 状況に基づく日本語話しことばの研究と、日本語教育のための基礎資料の作成

研究課題名(英文) Study on spoken Japanese based on situation and its pedagogical application

研究代表者

定延 利之 (SADANOBU, Toshiyuki)

神戸大学・国際文化学研究所・教授

研究者番号：50235305

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,000,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、書きことば研究に比べて立ち遅れの目立つ、日本語の話しことば(韻律を含む)の研究を進めるものである。「人物像」を重視した前研究(基盤A(H19-22))において、日本語の主な話し手像(発話キャラクタ)を分析したように、本プロジェクトでは日本語話しことばに見られる主な「状況」を考察し、「状況」に基づく話しことばの姿を分析する。特定の「状況」において「どのような立場の者が、どのような立場の者に対して、どのような発話の権利を持つのか」を明らかにし、それを活かした資料を作成する。

研究成果の概要(英文)：This project was undertaken to further research on spoken Japanese (including cadence) which has conspicuously lagged behind in comparison with research on written language. Similar to the analysis of major Japanese language speaker profiles (verbal characters) in our previous research, which emphasized “characters” (Kiban (A) H19-22), this research considers the major “contexts” seen in Japanese speech, and analyses the form of speech based on contexts. It clarifies, under specific contexts, what sort of speaking privileges are possessed by people in certain positions with respect to others in certain positions, and this is then used to generate data.

研究分野：言語学

キーワード：MRI 調音動態 自然会話 音声文法 状況 コミュニケーション 日本語 基礎資料

1. 研究開始当初の背景

話しことばは書きことばよりも基礎的とされるが(John Lyons 1981),その解明は大きく遅れ、教育に支障をきたしている。定延ら、本研究の代表者・分担者・連携研究者・研究協力者は協働して話しことばの研究を進め、平成16年度以来、日本語の話しことば教育の基礎となる資料(調音資料・会話資料)を作り、ネットやCDの形で公開してきた(科研基盤(A)平成16-18年度)。平成19年度からは『人物像』(キャラクタ)という概念を導入し、研究と資料のさらなる充実を図った(科研基盤(A)平成19-22年度)。海外からの要望に基づき、資料の一部は英語版・中国語版も作成してきた。

2. 研究の目的

本研究は、書きことば研究に比べて立ち遅れの目立つ、日本語の話しことば(韻律を含む)の研究を一層進めようとするものである。話しことば教育の基礎となる資料(調音資料・会話資料)を作成・公開してきたこれまでの事業経験(科研基盤(A)平成16-18年度、平成19-22年度)を活かし、それを踏襲しながらも、本研究では『状況』という概念を新しく導入する。『人物像』を重視した前研究(基盤(A)平成19-22年度)において、日本語の主な話し手像(発話キャラクタ)を抽出したように、本研究では日本語話しことばに見られる主な『状況』を抽出し、『状況』に基づく話しことば研究を行い、それぞれの『状況』ごとに「どのような『立場』の者が、どのような『立場』の者に対して、どのような発話の権利を持つのか」を明らかにし、それを活かした資料を作成する。

3. 研究の方法

所定の成果を確実に挙げるには、「データを収集する」「収集されたデータを分析・考察する」「得られた成果を発表する」「成果を活かして資料を作成・公開し、その資料への反響を再び研究と資料作成へフィードバックする」というようにらせん状に進展させていくべき研究活動の全過程において、本研究の中心概念である『状況』の重視を徹底する必要がある。そのために、これまで定延らが行ってきた話しことば研究と教育資料作成・公開事業の経験を活かしてそれを踏襲しつつ、研究活動の上記過程それぞれに応じて、専用の小プロジェクト、つまりワークパッケージ(以下「WP」)を設ける(「民間話芸調査研究」WP・「体験の文法」WP・「電子出版」WP)。

4. 研究成果

(1)データ収集については、神戸大学のメディア文化研究センター・国際文化学研究推進センターとの連携のもと、民間話芸調査事業を立ち上げ、その調査資料をネット上に公開している(webページのURLは次のとおり:

<http://www.speech-data.jp/kaken/chotto.html>)。

(2)体験の文法については、国際的な共同研究体制のもと、その成果を論文集として出版した(著書欄の)。

(3)電子出版については、本文中に音声データや動画データが組み込める電子雑誌『日本語音声コミュニケーション』をネット上に発刊させた。下記の論文 の所収はその雑誌である。

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計34件)

定延 利之、コミュニケーション原理: 言語研究からの眺め、2015年4月1日、電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ Fundamentals Review, Vol.8, No. 4, 276-291, 査読無し。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/essfr/8/4/8_276/_pdf

定延 利之、話し言葉が好む複雑な構造きもち欠乏症を中心に、石黒圭・橋本行洋(編)話し言葉と書き言葉の接点、ひつじ書房、pp. 13-36, 2014年9月22日、査読無し。

金田 純平(連携研究者)日本語教師によるビデオ教材の作成と共有のすすめ企画・制作・公開・コミュニケーション。2014年3月、日本語音声コミュニケーション、第2号、28-59、査読有り。
http://www.hituzi.co.jp/epublish/academic_journal/nhng_onsei/nihongoonsei02_nhng_02kaneda.pdf

定延 利之、身体化された文法・言語の姿を探る、菅原和孝(編)身体化の人類学: 認知・記憶・言語・他者、pp. 321-349, 京都: 世界思想社、2013年4月20日、査読無し。

定延 利之、フィラーは「名脇役」か?、日本語学、第32巻第5号、pp. 10-25, 東京: 明治書院、2013年4月15日、査読無し。

Sadanobu, Toshiyuki. 2013. 3.28. The Competitive Relationship between Japanese Accent and Intonation, The Research Circle for Teaching Japanese Speech Communication (ed.), Japanese Speech Communication, 1, pp. 1-27, 査読有り。

http://www.hituzi.co.jp/epublish/academic_journal/nhng_onsei/nihongoonsei01_eng.pdf

Sadanobu, Toshiyuki. Structural reversal between written and spoken languages in Japanese, *Studia: Universitatis Babe?-Bolyai Philologia*, LVIII, No. 1, pp. 21-33, 2013, 査読有り.

朱 春躍、中国話話者の日本語「ユ」はなぜ「ヨ」に聞こえるのか 日本語母音 /u/の再認識、杉藤美代子(編)音声文法(くろしお出版) pp. 103-122, 2011, 査読無し.

安田 麗(研究協力者)・林 良子(連携研究者) 日本語学習者における母音無声化 台湾人日本語学習者, 東京・近畿方言話者を対象に、音声研究、第 15 巻第 2 号, pp. 1-10, 2011, 査読有り.

阿 栄娜(研究協力者)・林 良子(連携研究者) シャドーイング訓練による日本語学習者における語アクセントの変化、ことばの科学研究、第 12 巻, pp. 57-71, 2011, 査読有り.

砂川 有里子(連携研究者) 日本語教育へのコーパスの活用に向けて、日本語教育、第 140 巻, pp. 4-18, 2011, 査読有り.

定延 利之・羅 米良(研究協力者) 文法・パラ言語情報・キャラクタに基づく日本語名詞性文節の統合的な記述、カナダ日本語教育振興会, *Journal CAJLE* (ISSN 1481-5168), Vol. 12, pp. 77-95, 2011, 査読有り.

定延 利之、身体としてのことば 「スタイル」の限界、日本通訳翻訳学会、通訳翻訳研究、第 11 号, pp. 49-74, 2011, 査読有り.

定延 利之、コミュニケーション研究から見た日本語の記述文法の未来、日本語文法学会、日本語文法、第 11 巻第 2 号, pp. 3-16, 2011, 査読有り.

[学会発表](計 9 4 件)

定延 利之、「当事者間の了解」に関する無限後退の問題について(招待講演) 電子情報通信学会 思考と言語研究会(TL)、2014 年 12 月 20 日、大阪電気通信大学寝屋川駅前キャンパス.

定延 利之、日本語を文節でしゃべる(招待講演)、英国日本語教育学会セミナー、2014 年 4 月 12 日、リージェンツ大学ロ

ンドン(イギリス).

Zhu, Chunyue, and Toshiyuki Sadanobu. Observation of so-called “ pursed-lip ” and “ curled-lip ” utterances in Japanese, using video and MRI images, *Speech Prosody 7*, Trinity College Dublin (アイルランド), 2014. 5.22.

Sadanobu, Toshiyuki. The Structure of Japanese Phrase in Accordance with Speaking Modes, *Speech Prosody 7*, Trinity College Dublin (アイルランド), 2014. 5.20.

定延 利之、「キャラクタ」: コンテキストに応じた人物像(招待講演), コンテキストに基づいた日本語の話し言葉, 2014 年 4 月 4 日, ボルドーモンテニュ大学(フランス).

定延 利之、キャラクタから見た翻訳の問題と解決(招待講演), 電子情報通信学会・思考と言語研究会、2014 年 2 月 21 日、千葉大学.

Sadanobu, Toshiyuki. “ Know ” and “ Experience ” in Japanese(基調講演), *Epistemology for the Rest of the World*, JAIST Tokyo Satellite Office, 2013. 8. 8.

定延 利之、キャラクタから見る日本のコミュニケーションとことば(招待講演) 第 5 回シベリア日本及び日本語研究・日本語教育シンポジウム、2013 年 3 月 16 日、ノボシビルスク市立「シベリア・北海道」文化センター, Novosibirsky (ロシア).

定延 利之、文末のことばやイントネーションをうまく教えるための「場面」の分類(基調講演) 中東欧日本語教育研修会、2013 年 2 月 9 日、Goethe Institute, Budapest (ハンガリー).

定延 利之、日本語の発話を理解する新しい考え 状況とキャラクタ(基調講演) 国立臺中科技大学語文學院 2012 年文化語言教學國際學術研討會、2012 年 11 月 2 日、中商大樓(台湾).

定延 利之、身体としてのことば 「スタイル」の限界(基調講演) 日本通訳翻訳学会第 12 回大会、2011 年 9 月 10 日、神戸大学.

Toshiyuki Sadanobu. The competitive relationship between Japanese accent and intonation, EAJS 13, Tallinn University (エストニア), 2011. 8.26.

定延 利之、状況に基づく日本語話しことばの文法(基調講演) 第12回フランス日本語教育シンポジウム、2011年5月13日、ポルドー第3大学(フランス)。

〔図書〕(計3件)

定延 利之、ひつじ書房、コミュニケーションへの言語的接近、2015、未定。

定延 利之(編著) ころしお出版、日本語学と通言語的研究との対話 テンス・アスペクト・ムード研究を通して、2014年6月10日、225頁。

犬飼 隆(研究協力者)・和田明美、青簡舎、万葉人の声、2015年2月、161頁。

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.speech-data.jp/kaken/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

定延 利之(SADANOBU, Toshiyuki)
神戸大学・国際文化学研究科・教授
研究者番号：50235305

(2)研究分担者

ニック・キャンベル(Nick CAMPBELL)
奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・客員研究員
研究者番号：50395109

森 庸子(MORI, Yoko)
同志社大学・研究開発支援機構・嘱託研究員
研究者番号：50441192

(3)連携研究者

ドナ・エリクソン(Donna ERICKSON)
金沢医科大学・一般教育機構・非常勤講師
研究者番号：80331586

金田 純平(KANEDA, Jumpei)
国立民族学博物館・文化資源研究センター・機関研究員
研究者番号：10511975

坂井 康子(SAKAI, Yasuko)
甲南女子大学・総合人間学部・教授
研究者番号：30425102

匂坂 芳典(SAGISAKA, Yoshinori)
早稲田大学・国際情報通信研究科・教授
研究者番号：70339737

朱 春躍(SHU, Shunyaku)
神戸大学・国際コミュニケーションセンター・教授
研究者番号：80362755

砂川 有里子(SUNAKAWA, Yuriko)
筑波大学・人文社会科学研究科(系)・教授
研究者番号：40179289

友定 賢治(TOMOSADA, Kenji)
県立広島大学・保健福祉学部・名誉教授
研究者番号：80101632

林 良子(HAYASHI, Ryoko)
神戸大学・国際文化学研究科・教授
研究者番号：20347785

森山 卓郎(MORIYAMA, Takuro)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：80182278

大和 知史(YAMATO, Kazuhito)
神戸大学・国際コミュニケーションセンター・准教授
研究者番号：80370005

(4)研究協力者(一部)

犬飼 隆(INUKAI, Takashi)

杉藤 美代子(SUGITO, Miyoko)

藤村 靖(FUJIMURA, Yasushi)